| | ★休校中や学校再開後の、あなたの学校の児童生徒の状況について<br>あなたが『とりわけ大きな問題』と思っていることについて具体的にお書きください。 |
|---|---|
| 小 | ・休校中に生活リズム（睡眠、食事など）が悪化し、その影響が見られること。臨時休校中に課題を放置し、 |
| 小 | 1学期が長期化したことによる疲れやストレスの増加 |
| 小 | ①虐待等、保護者のメンタルヘルスに課題のある家庭で、これまで以上に子どもが放置されたり、負荷がかか |
| 小 | 3カ月も、家にいた子どもたちの身体の成長に不具合が出るのではないか心配している。 |
| 小 | SNSの問題 |
| 小 | SNS依存 |
| 小 | いつ、児童生徒教職員が、感染するかもしれないこと。 |
| 小 | いつまでこの生活が続くのか見通しがつかず、ストレスになっていること。 |
| 小 | いつもどおりの新年度スタートとならなかったため、学校が再開しても、１年生の精神的不安が大きかった。 |
| 小 | いつもと違う新年度の始まりとなり、適応できない児童が増えた。(教室に入れない。友達との接し方が分か |
| 小 | オンラインゲームの使用が増えてきた。 |
| 小 | お家時間を健康に過ごすことが本当に難しく、家庭の格差が大きい。また、無気力な子どもたちが気になって |
| 小 | ゲーム・インターネットの使い方 |
| 小 | ゲーム･インターネット依存で登校しぶりが見られる児童が複数いる。 |
| 小 | ゲームなどの過剰使用が続いている。 |
| 小 | ゲームによる睡眠不足のため朝起きれず、不登校傾向になる児童の生活が数ヶ月たっても改善されないこと。 |
| 小 | ゲームのやりすぎにより、睡眠不足や、衝動的な行動が見られる児童がいる |
| 小 | ゲームの過剰使用により生活リズムが乱れる |
| 小 | ゲームの使用が増加しており、トラブルも出てきている |
| 小 | ゲームやインターネットの過剰使用 |
| 小 | ゲームやインターネットの使用時間 |
| 小 | ゲームやインターネットの使用時間がかなり増え、視力低下や睡眠時間の不足が深刻である。 |
| 小 | ゲームやタブレットなどの使用時間の増加、習い事やスポーツ少年団などの再開による生活リズムの変化 |
| 小 | ゲーム依存で生活リズムが狂い、不登校傾向になった。親子で学校に来る意義を見失い、怠学傾向になった。 |
| 小 | ゲーム依存と思われる子どもが増えたこと |
| 小 | けがする児童が多い |
| 小 | けがの増加、体力の低下、生活リズムの乱れ、不登校傾向の増加 |
| 小 | ケガや体調不良を訴える児童の増加 |
| 小 | けがや病気以外の保健室来室児童が増えたこと。 |
| 小 | コミニュケーション力の低下 |
| 小 | これから、感染拡大で本校での発生事例が出た場合の、対応が明確になっていない。 |
| 小 | コロナウイルスに対して、意識、知識が以外と少ないこと |
| 小 | コロナに対して有効な治療もなく、かからないように注意しているが、かかってしまったとき大きなショッ |
| 小 | コロナの影響で、登校しぶりになった |
| 小 | コロナ感染を恐れて未だに登校できない児童がいる。 |
| 小 | ステイホームによるストレス、ゲーム時間の増加による生活習慣の乱れ |
| 小 | ストレスなどで精神的に不安定な児童が増加したこと |
| 小 | ストレスにより、イライラしている児童生徒が増え、心のケアが必要だと思っている |
| 小 | ストレス反応を示す児童が一部見受けられます。大半の児童は表面的には順応しつつあるように見えますが、 |
| 小 | だらだらと過ごす時間がとても長かったため、心とからだの調子が崩れてしまった子どもがいること、栄養か |

| | |
|---|---|
| 小 | できる限りの感染予防はしているが、ひとクラスの在籍数が多いので、学校での3密対策には限界がある。 |
| 小 | デマや噂に影響されていること。 |
| 小 | とにかく骨折などの怪我が多かった。 |
| 小 | どの問題についても、概ね改善傾向がみられている。しかし、学校内でクラスターが起きる危険性についてに |
| 小 | ネグレクトの児童が、給食で救われていたが、給食がなくて、体重がどんどん減っていることなど。 |
| 小 | ネット・ゲーム依存による生活習慣の乱れが学校生活に支障をきたしている。 |
| 小 | ネット依存　ゲーム依存が増加しているのではないかと思っています |
| 小 | ネット利用による生活リズムの乱れ。就寝時間が遅くなっている。 |
| 小 | メディアコントロールの難しさ 母子分離の難しさ |
| 小 | メディアの過剰使用による生活リズムの崩れ |
| 小 | メディアの利用時間が増えている。つかい方に気をつけるよう啓発はしているが、自粛期間があったり思うよ |
| 小 | メディア依存により、精神面が不安定になること。 |
| 小 | メディア使用と視力低下、体力低下 |
| 小 | メンタルヘルス |
| 小 | メンタルヘルス |
| 小 | メンタルヘルス |
| 小 | もともとメンタルの弱い子が多いと感じる学校ですが、今まで以上に精神的に不安定な子が多くなった。 |
| 小 | もともと不安傾向にあった児童が休校期間が長かったため学校再開後、不安やストレスが増している |
| 小 | もともと不登校傾向だったが、生活リズムが乱れて登校しにくくなった児童が増加した。 |
| 小 | やっと学校が再開して、スムーズに、進んでいた時に、災害が発生したので、2重に問題が広がっている。 |
| 小 | やはり、心の不安定さを感じる児童が増えてきて、教育相談的対応がかなり多くなったことです。 |
| 小 | 一部児童の体重増加　個人の体力の差が広がっている |
| 小 | 運動不足、肥満、ゲームやインターネット |
| 小 | 夏休みまでの期間が延長したことによる精神的な疲れが体調に出てきた児童が多くなったこと。 |
| 小 | 夏休みも短縮され、ハイスピードで授業が進んでおり、教師も子どももストレスが予想以上にかかっているこ |
| 小 | 家で過ごす時間が増え、ゲーム依存や睡眠障害の児童が増えた。それに伴い不登校傾向児も増加している。 |
| 小 | 家で過ごす時間が増え、ゲーム等を依存的に使う児童が増えている。宿題をやってこない、睡眠時間が十分に |
| 小 | 家にいなければならない時間が増し、家族間や兄弟間のトラブルまたはストレスにより、親からの虐待が明り |
| 小 | 家庭での教育での格差が大きいこと |
| 小 | 家庭で過ごすことによる学力、体力の格差があるのではないか。 |
| 小 | 家庭で過ごす時間が長かったため、ゲーム障害になってしまった児童がいて、現在、不登校状態です |
| 小 | 家庭における生活レベルの格差によって、食事や学習に、大きな差が出来た |
| 小 | 家庭の教育力の格差 |
| 小 | 家庭の教育力や経済力が児童自身の学力や生活リズムにつながっているため、問題が発生している児童の家庭 |
| 小 | 家庭内で不安定な生活習慣になり、登校しぶりや不登校が増えた保護者の不安感や貧困が子どもに影響してい |
| 小 | 家庭内の不安定さがあった児童が登校しぶりから保健室登校になった。いつもおびえている様子で飲食もあま |
| 小 | 過敏になっている子どもと、無頓着 な子どもの両方が一緒に学校 生活を過ごすことで意識の 差がある |
| 小 | 怪我の増加、感染防止のため遊び方を制限したことによる運動をして遊ぶ児童の激減 |
| 小 | 開校したばかりの６月は転んで骨折した子どもが３人、鉄棒の着地で手をついて骨折した子どもが１人いた。 |
| 小 | 外遊びができない、体を動かす機会が減ったこと。 |

| | |
|---|---|
| 小 | 学校が再開され、長期の休校が児童に及ぼす影響がでていること。不安やストレスを訴えて、学校を休めてし |
| 小 | 学校で３密を避けることや、マスクを清潔に管理させることがとても難しい。 |
| 小 | 学校で３密を避ける事は極めて難しい。一人感染者が出たら感染を防ぐ自信がない。 |
| 小 | 学校では1件だけでしたが、スポーツや遊びの中で、6月以降の手や腕の骨折が数件あった。偶然かもしれませ |
| 小 | 学校にはくるものの、頑張りがきかず、体調不良を訴え教室を出てくる子ども、登校しぶりが増えた。 |
| 小 | 学校による新型コロナウイルス感染症対策の差 |
| 小 | 学校の規模が小さいことで、３密に対する危機感が薄くなりがちなこと。 |
| 小 | 学校や教室から足が遠のく児童が増加した |
| 小 | 学校や近親者に感染者が出たり、広がることや２学期からの健康診断や行事がうまく感染症対策を講じながら |
| 小 | 学校現場での3密を防ぐ行動を、小学生が徹底するのはなかなか難しい |
| 小 | 学校再開後、ストレスなど不安定な精神状態を示す児童生徒が増加したこと |
| 小 | 学校再開後、学校生活に適応できなかったり不安定なったりする児童が増加したこと |
| 小 | 学校再開後、学校生活の規律に急に対応できず、不適応を起こしている児童がいる。 |
| 小 | 学校再開後、精神不安から不適応を示す児童が増えた。また、慣れない土曜日授業で、身体的疲労がみられ、 |
| 小 | 学校再開後、登校しぶりの児童が増加したこと。メディア接触時間が増加していること。 |
| 小 | 学校再開後、登校しぶりや保健室への頻回来室児童の増加があり、感染対策をしながらの対応が難しく、手た |
| 小 | 学校再開後、内科的な保健室来室が増え、学校(教室)に行きたくないという子どもの声が多数ありました。 |
| 小 | 学校再開後に、友だちとどう話していいかわからなくなった、友だちとうまく遊べないと、保健室に来室する |
| 小 | 学校再開後の登校しぶりが増えたこと |
| 小 | 学校再開後の登校渋り |
| 小 | 学校再開直後、不安から意識消失で倒れた児童がいた。その後も不安が強く、保健室登校が続いている。 |
| 小 | 学校生活に慣れるまでに時間がかかるのか、遅刻の児童も多く、なかなか教室に入れない児童もいる。 |
| 小 | 学校生活に制限が増え、子どもたちにも我慢させることが増えていること |
| 小 | 学校生活に適応しきれていない児童が増えたこと。 |
| 小 | 学校生活に適応できない児童の増加 |
| 小 | 学校生活に適応できない児童の増加 |
| 小 | 学校生活のルールが定着していたものが崩れている。 |
| 小 | 学校生活上での感染拡大 |
| 小 | 学校全体として頑張って対応しているが、感染防止には限界がある。それを果たして世の中が理解してくれる |
| 小 | 学校不適応。 |
| 小 | 学習に集中できていない |
| 小 | 学習への意欲の低下 |
| 小 | 学習面での保証を最優先している学校方針や保護者に対して、子どもたちのストレス比重は重く、発熱がなく |
| 小 | 感染しているかどうか健康な状態であれば確かめようがないこと。 |
| 小 | 感染する児童か発生した場合の対応について |
| 小 | 感染の心配 |
| 小 | 感染への恐れから、不登校になってしまう児童がいること。 |
| 小 | 感染への不安や夜型の生活等から、心身が不安定な児童が増加している。 |
| 小 | 感染拡大 |

| | |
|---|---|
| 小 | 感染者が出たときに感染拡大しているおそれがあること |
| 小 | 感染者が出たときの対応や、クラスターが発生してしまったらと考えるととても不安です |
| 小 | 感染者に職員がなった時の人権問題 |
| 小 | 感染者の関係者への心のケア |
| 小 | 感染症が学校内で広がる可能性があり、その対応が心配である |
| 小 | 感染症の感染拡大 |
| 小 | 感染症の感染拡大 |
| 小 | 感染症の心配のため登校しない児童が複数いましたが、これは仕方ないかと思います。また登校しぶり、昼夜 |
| 小 | 感染症対策に追われ、不登校児童に対応する職員のスキルも余力もないこと |
| 小 | 感染症対策のための行動の制限や楽しみにしていた行事の中止などが重なり、児童がにかかる精神的負担が大 |
| 小 | 感染防止での様々な活動短縮はやむを得ないが、児童の心のケアが気になる。 |
| 小 | 感染防止に限界がある事 |
| 小 | 感染防止対策と同時に不登校対応、虐待などの命に関わる心配をしなければならないこと。 |
| 小 | 感染予防行動の徹底による子どもたちが感じるストレス |
| 小 | 気分不良などの体調不良の訴え、心理的要因による体調不良、登校渋りが、明らかに増加している。学校が再 |
| 小 | 虐待にかかわる相談が増えたこと |
| 小 | 虐待のリスクが高まっている児童がいること。親も常にイライラしている状況が伝わり、マスクやハンカチ等 |
| 小 | 虐待の恐れがあった家庭で、実際に暴力を受けた児童がいて、児童相談所に一時保護の措置となりました。 |
| 小 | 虐待や貧困、家庭での格差 |
| 小 | 虐待リスクの高まり |
| 小 | 休業中にゲームで繋がってグループができ、入れず疎外感を感じているこがいる。再開後も、何時にゲームで |
| 小 | 休校が長引くと、特性を持つ児童が、学校生活に慣れることができなかったり、家庭でのストレスが大きくな |
| 小 | 休校により、子どもたちの生活習慣の乱れが目立つ。ゲームやYouTubeを過剰使用し、昼夜逆転している子と |
| 小 | 休校により生活リズムや習慣が乱れたこと。学校生活に馴染めない児童が多くみられる。 |
| 小 | 休校期間中にスマホやタブレットなどを購入し、児童間でラインやネットゲームの利用が増え、ネットを通じ |
| 小 | 休校後の保健室利用が増えたこと |
| 小 | 休校中に運動する機会が減り、学校再開後も感染防止対策により、休み時間の遊びや体育の学習に制限がかか |
| 小 | 休校中のゲーム過剰使用による影響で生活リズムが崩れ、不登校気味になっている児童がいること |
| 小 | 休校中の影響が心身に起こっている。特に視力低下が顕著に現れており、気をつけないといけないと感じた。 |
| 小 | 休校中の過ごし方。生活習慣の乱れ。感染対策と熱中症対策の両立。 |
| 小 | 休校中の過ごし方が大きくかかわっていると思うが、教室で座っていることができず授業に参加できない児童 |
| 小 | 休校中の学習への取組が家庭によって差がある。そのため、元々勉強への苦手意識があった子どもや学習の遅 |
| 小 | 休校中の虐待リスクの高まり、学校再開後の学校生活に適応できない児童の増加 |
| 小 | 休校中の生活リズムの乱れにより、不登校傾向になった児童が出現したこと |
| 小 | 休校中の生活習慣。昼夜逆転、SNSの過剰利用が特に大きな問題。 |
| 小 | 休校中の生活習慣の乱れ |
| 小 | 休校中の生活習慣の乱れに伴い、登校しぶり児童が増えており、家でのネット依存によって、生活に支障をき |
| 小 | 休講期間が終わり、1年前の4月と比べて、体重の大幅な増加（10kg以上の増加も数名）が見られる児童が多数 |
| 小 | 休講期間での生活リズムの乱れ |
| 小 | 拒食症状の子が複数出た。 |

| | |
|---|---|
| 小 | 教室で学習をすることができない児童が増加した。精神的な要因から体調不良を訴える児童が増加した。 |
| 小 | 教職員の意識の低さが子どもにもあらわれていること。 |
| 小 | 経済的に厳しい家庭が多い中、その影響が、今後子どもたちの生活に出てくるのではないかということ。 |
| 小 | 健康課題の増加と精神的に不安定になる児童が増えたこと |
| 小 | 元々不登校傾向や不規則な生活習慣、ゲーム等の過剰使用が課題だった児童の状態が、長期休業により深刻化 |
| 小 | 午前2時や3時くらいまでゲームをしていた児童もおり、生活リズムの乱れから体調不良を訴える児童が多かっ |
| 小 | 校内で感染症が発生しないか心配である |
| 小 | 行事の削減 |
| 小 | 今後、流行する恐れがあること |
| 小 | 再開してからの授業が算数２時間連続など、勉強の苦手な児童の登校しぶりが増加 |
| 小 | 再開にあたって心配していたような児童の様子は意外と見えない。割と普段通りに過ごしているように見える |
| 小 | 再開後、顕著な症状はないが、休校中に上記の点についての影響を懸念し、家庭に注意を啓発した。 |
| 小 | 再開後、不登校、保健室登校、登校しぶりなど、学校生活に適応できない児童生徒が増加したこと |
| 小 | 最近、近隣でクラスターが発生し、地域での感染拡大が懸念される。夏休み明けの健康管理、指導、対応が課 |
| 小 | 三密を避けるなどしているが学校でクラスターが発生しないか不安である。 |
| 小 | 三密を避ける指導をしているが、学校生活の場合、それは完全に無理です。それどころか、手を繋ぎ、顔をく |
| 小 | 子どもが生き生きとしていないこと |
| 小 | 子どもたちの学びの活動が制限されていること。感染リスクを抑えながら子どもたちの学びの保障をどのよう |
| 小 | 子どもたちの電子メディアに接する時間が増え、生活リズムが乱れつつあること |
| 小 | 子どもにとってのストレス |
| 小 | 子どもにとっても保護者にとってもストレスが大きい中で、身体的虐待につながる |
| 小 | 子供の適応能力の高さに驚いている。大人の働きかけ次第で、いかようにも良い方向に導いていける可能性を |
| 小 | 市教委の過剰な対応及び指示 |
| 小 | 視力の低下 |
| 小 | 視力の低下した児童が増加した。 |
| 小 | 視力低下、ゲーム依存 |
| 小 | 視力低下、集中力の低下 |
| 小 | 視力低下が例年より低年齢化していること。 |
| 小 | 視力低下と肥満 |
| 小 | 視力低下と肥満増加 |
| 小 | 児童・教職員に感染者が出た場合、クラスターが発生するのではないかと心配している。 |
| 小 | 児童が教室で居心地の良い状態をうまく作れないことが多く感じる。 |
| 小 | 児童が濃厚接触者となったが、保健所から、個人が特定されないように学校からは情報を出さないように指示 |
| 小 | 児童のストレスが蓄積されていること |
| 小 | 児童のメンタルヘルスケア |
| 小 | 児童の情緒面等の問題。例えば、それまで授業中に来室することのなかった児童が、授業への集中力が持続し |
| 小 | 児童の心の健康について |
| 小 | 児童の心の問題 |
| 小 | 児童の心理面での問題は大きい。(不登校や、自傷行為など)休校で生活リズムが変化したこと、また再開によ |
| 小 | 児童の生活リズムの変化や体力低下に伴い、非常に疲れやすい傾向にあること。インターネットやゲームの過 |

| | |
|---|---|
| 小 | 児童の体力の低下、生活リズムの悪化 |
| 小 | 児童の体力低下に伴い、暑さに耐えられない児童が増えている。新型コロナウイルス感染疑いと熱中症疑いの |
| 小 | 児童の落ち着きがなく、例年に比べて怪我の件数や病院につなぐケースが増えたこと。 |
| 小 | 児童や教職員の感染からのクラスター発生の防止対策 |
| 小 | 児童や保護者に感染下ケースが出たときの学校としての対応 |
| 小 | 児童生徒がコロナウイルス感染症にかかった際に、クラスターが発生する可能性があるということ。 |
| 小 | 自粛期間が長かったこともあり、ストレスから悪心を訴える児童や、教室に入れず保健室登校になってしまっ |
| 小 | 自宅待機中に動いてないことで、足の捻挫等のけがが増えた。 |
| 小 | 授業に集中できず、姿勢を保つことができない児童が見られた。 |
| 小 | 集団が苦しく感じる児童が増えている。 |
| 小 | 集団の中に入れない子供が増えた。 |
| 小 | 出来る限りの感染対策はしているが、いつ校内で感染者がでるか常に不安があること |
| 小 | 小さなことでも骨折につながる事例が増えたこと。 |
| 小 | 小学1年生や保護者について、適応に時間がかかっていると感じる。また、6年生が上級生として自覚を持てる |
| 小 | 消毒作業 |
| 小 | 情報が多く、どれが正しいかわからない。 |
| 小 | 寝不足の児童が増え、体調不良を理由に保健室で睡眠をとる児童もいる。 |
| 小 | 心の健康問題、ストレスへの対処 |
| 小 | 心の健康問題、肥満の増加 |
| 小 | 心の問題。チェックリストが毎月あり、QUなど例年行なっている調査もある。はたして子ども達にコロナの |
| 小 | 心身の体調不良、ケガが増え、保健室での対応に限界を感じている。多くの子どもにとって、心の支えとなり |
| 小 | 心身の不調を訴える児童が多い。突然イライラしたり、泣いたりして、授業に参加することが難しい児童がい |
| 小 | 心身の不調を訴える児童や学校生活に適応できない児童の増加 |
| 小 | 心理的要因と思われる児童の来室が大きく増加したこと |
| 小 | 新しい生活様式に順応できない児童のフラストレーションがたまり、粗暴な言動が見られる。また、担任と児 |
| 小 | 新型コロナが児童に拡大する可能性があること |
| 小 | 新型感染症を危惧して、基礎疾患を有する児童が登校できていないこと。もともと不登校の児童が休校後に更 |
| 小 | 生活、教育（学力）的な格差が出ていること。 |
| 小 | 生活が乱れ、昼夜逆転の生活から抜けれず、不登校傾向が強まった児童がいること。 |
| 小 | 生活リズムがくずれていること |
| 小 | 生活リズムが不安定となったり、原因ははっきりしないものの行き渋り傾向の児童が増えたこと。 |
| 小 | 生活リズムが崩れ、睡眠障害となり、不登校になった児童が出た |
| 小 | 生活リズムが崩れていること。体力の低下。チック様症状が出ている児童の増加。 |
| 小 | 生活リズムが崩れている児童か多く、運動不足の子どもが多い。 |
| 小 | 生活リズムが乱れ、ゲームやネットの時間を制限できなくなったこと。 |
| 小 | 生活リズムが乱れ、朝ご飯を食べずに来たり、朝から体調不良の児童が多い。 |
| 小 | 生活リズムが乱れたことにより、肥満傾向の児童が増え、検尿の再検査数も例年より多数見られ、健康状態を |
| 小 | 生活リズムが乱れて、体調不良を訴える児童が増えたこと。 |
| 小 | 生活リズムの悪化やゲーム・インターネット等の過剰な使用。 |
| 小 | 生活リズムの変化 |
| 小 | 生活リズムの崩れ |

| | |
|---|---|
| 小 | 生活リズムの崩れ。肥満傾向児童の増加。スマホ、タブレット等の使用時間の増加。 |
| 小 | 生活リズムの崩れによる体力低下 |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ |
| 小 | 生活リズムの乱れ　肥満児童の増加 |
| 小 | 生活リズムの乱れ、ゲーム・ネットのやりすぎ |
| 小 | 生活リズムの乱れ、ゲームなどのメディアの長時間使用。 |
| 小 | 生活リズムの乱れ、感染者への差別や病院関係者への対応 |
| 小 | 生活リズムの乱れ、視力の低下 |
| 小 | 生活リズムの乱れ。 |
| 小 | 生活リズムの乱れ。社会生活にうまく適応できない。保護者の経済面。 |
| 小 | 生活リズムの乱れから、ゲームの時間や課金が増えたり、親と喧嘩になったり、視力の低下がみられたこと。 |
| 小 | 生活リズムの乱れのほか、マイナス思考で元気がない児童も多く、職員も精一杯であること。 |
| 小 | 生活リズムの乱れやストレスにより、不安定な状況になる子供がいる。 |
| 小 | 生活リズムの乱れや体力低下 |
| 小 | 生活環境格差 |
| 小 | 生活習慣、オンラインゲームでの対人トラブル、無気力 |
| 小 | 生活習慣が乱れ、体重増加、う歯保有者、視力の低下が増えた。 |
| 小 | 生活習慣の乱れ |
| 小 | 生活習慣の乱れ |
| 小 | 生活習慣の乱れ |
| 小 | 生活習慣の乱れ |
| 小 | 生活習慣の乱れ、特にゲームの過剰使用が目立った |
| 小 | 生活習慣の乱れ。 |
| 小 | 生活習慣の乱れから、学校への行きしぶりや、登校してきても不定愁訴の増加があったこと。 |
| 小 | 生活習慣の乱れについて |
| 小 | 生活習慣の乱れによる肥満傾向の増加と睡眠不足 |
| 小 | 生活習慣の乱れや運動不足から、肥満が増えたこと。 |
| 小 | 生活習慣の乱れ特にネット依存 |
| 小 | 生活面や教育面における家庭格差の拡大が生じることにより、児童の心身への影響がみられたこと。 |
| 小 | 精神状態の不安定さ |
| 小 | 精神的に不安定な児童が増え、保健室利用が多くなったこと |
| 小 | 精神面で弱っている子供が増えたのにカウンセラーが常備されていないので学校職員だけでは対応しきれない |
| 小 | 先が見えないことや予定が次々変更になることなどへの不安とストレスの蓄積 |

| | |
|---|---|
| 小 | 先を見通しての対応がわからないこと |
| 小 | 体の使い方が下手になったのか、休み時間や体育でのけがが増えた。三密や熱中症対策について職員・児童も |
| 小 | 体験から得られる精神的な成長や人との交流からの学び |
| 小 | 体重の上昇が著しい子どもが多い。容姿が変わってしまっている子がいるので、いじめ等につながらないか気 |
| 小 | 体重の著しい増加が見られる児童が増えた(最大で昨年4月より15kg増の児童あり) |
| 小 | 体重増加 |
| 小 | 体重増加とインターネット・ゲームの使用時間の増加により依存傾向もみられて困っている |
| 小 | 体調不良(マスクの影響、新学期が始める不安からの不調)が増えたこと。 |
| 小 | 体調不良での頻回来室があるが、コロナ感染症かどうか病院に受診しても簡単には判断できないところ。風邪 |
| 小 | 体調不良と新型コロナウイルス感染症の明確な見分けができないこと。 |
| 小 | 体調不良による欠席（出席停止）を積極的に促す対策を実施する中で、不登校傾向の児童の登校刺激が難しく |
| 小 | 体調不良の児童が多い |
| 小 | 体調不良を訴えてくる児童が増えたこと |
| 小 | 体調不良を訴える子どもがコロナではないかと不安に思って来室すること |
| 小 | 体調不良を訴える児童の対応 |
| 小 | 体調不良者の保健室利用の制限 |
| 小 | 体力が低下し、気力がなくなった児童が増えた。また、登校しぶりが見られた児童も多くなったように感じる |
| 小 | 体力の低下 |
| 小 | 体力の低下。学力格差。 |
| 小 | 体力の低下と、生活習慣の乱れ |
| 小 | 体力の低下について。学校再開後、怪我が多く骨折の怪我も増えたと思う。 |
| 小 | 体力の定価 |
| 小 | 体力低下 |
| 小 | 体力低下、肥満傾向増加 |
| 小 | 体力低下により体調不良をおこしやすくなった |
| 小 | 体力低下による熱中症のリスク |
| 小 | 体力低下による熱中症のリスク |
| 小 | 体力低下に伴う熱中症の増加と、家庭環境の変化（失業など、、）による問題。 |
| 小 | 朝起きれないために不登校になった児童がいること。（起床困難以外に具体的に行けない理由ない。日中の活 |
| 小 | 長い休校があったため、突然の学校再開についていけない不登校児童が目立つ点。 |
| 小 | 長い休校のため、生活リズムが乱れ、登校しぶり傾向の児童がめだっていること。 |
| 小 | 長い休校の後で学校へ行くことを渋る子が増えました |
| 小 | 長期の休校の影響か、登校しぶりが増えた。また、長時間親子でいる時間が長く、心理的に親子ともにイライ |
| 小 | 長期間の運動不足に伴うケガの増加 |
| 小 | 長期間運動不足になっていて、児童自身が体力の低下に気が付いておらず、けがをしやすくなっていたこと、 |
| 小 | 長期休みとなり、生活リズムが崩れ、テレビやゲーム視聴の長さが増加し、身体面、精神面での課題があるこ |
| 小 | 長期休校により、生活リズムが乱れ遅刻が多くなっている。視力の低下や肥満度の急上昇した児童が多くみら |
| 小 | 低学年を中心に、授業に集中できない児童や行きしぶりを見せる児童が多くみられる。その対応で教員も保護 |
| 小 | 登校しぶり |
| 小 | 登校しぶり |
| 小 | 登校しぶりが悪化している児童がいる。しかし，発熱があると言われると休みを許可するしかなく，こちらも |
| 小 | 登校しぶりが増えたこと |
| 小 | 登校しぶりの児童が増えた。 |

| | |
|---|---|
| 小 | 登校しぶりの増加 |
| 小 | 登校しぶりの増加、肥満傾向児の増加 |
| 小 | 登校しぶりや、落ち着きがなくなり多動・衝動性の状態が悪化している児童が増えている。 |
| 小 | 登校渋滞が増加しました。少しの事が耐えられなくなっています。 |
| 小 | 特に1年生の登校渋りがひどくなりました。 |
| 小 | 特に新入生が、学校のリズムが身に付かず、登校しぶり等が見られた。 |
| 小 | 二学期には、運動会も予定していて、体力の低下や熱中症のリスクや、当日の感染防止対策等、課題が多い。 |
| 小 | 日々、不安が解消することがないこと |
| 小 | 漠然とした不安による精神不安定の児童が増えたこと |
| 小 | 発達障害を抱える児童の行動が落ち着かないこと。 |
| 小 | 肥満 |
| 小 | 肥満、生活リズム |
| 小 | 肥満が悪化して高度肥満になった児童がいる。ゲーム障害で高額の課金をした児童がいて、入院治療をしてい |
| 小 | 肥満が一番の課題です。 |
| 小 | 肥満ややせの子が増え、虐待の可能性を否定できないこと |
| 小 | 肥満傾向、視力低下児童の増加。しかし、健康診断を例年通りに実施できないこと。 |
| 小 | 肥満傾向の児童が増えた。 |
| 小 | 肥満傾向の児童が増えた。 |
| 小 | 肥満傾向児の増加。メディア依存。 |
| 小 | 肥満傾向児童が増えており、もともと肥満だった児童も明らかに状態が悪くなっている。また、学校再開後の |
| 小 | 肥満傾向児童の割合が増えた。 |
| 小 | 肥満傾向児童の増加 |
| 小 | 肥満傾向児童の増加。体力の低下。メデイア依存。 |
| 小 | 肥満児童が1.7倍、痩せ傾向児童が2倍になった。 |
| 小 | 肥満児童の増加 |
| 小 | 肥満度が上がった子がとても多く、個別に指導した。 |
| 小 | 不安の強い児童が増えていること。子ども達の中に深いストレスが燻り心身が病んでしまった子が多くなって |
| 小 | 不登校 |
| 小 | 不登校、保健室登校の児童が増えた。けが病気のゾーニングをしたり、早退者を、別室待機させているのに、 |
| 小 | 不登校の児童がより来なくなったきっかけになった長期臨時休業 |
| 小 | 不登校の増加 |
| 小 | 不登校の増加 |
| 小 | 不登校や保健室登校、しぶりの増加 |
| 小 | 不登校傾向のある児童の生活習慣の乱れによる心身の不調 |
| 小 | 不登校傾向の子どもが増えたことと、そのことに対応する教員が足りていないこと。教員、保護者とも、子と |
| 小 | 不登校傾向の児童が、増えた。教室から、飛び出してしまう児童が、増えた。 |
| 小 | 不登校傾向の児童がますます母子分離不安になった。 |
| 小 | 不登校傾向の児童が増加した |
| 小 | 不登校傾向の児童が登校しぶりを表すことが多い。 |
| 小 | 不登校傾向の児童にとって、さらに学校へ行くことが困難になった気がする。学校に行かなくてもよいと、家 |

| | |
|---|---|
| 小 | 不登校傾向を示す児童の増加。教職員の疲弊が顕著に現れている。児童の生活リズムの乱れ。 |
| 小 | 不登校児童が一気に増加したこと。母子分離ができなかったり、家庭環境が不安定担ったことに伴う可能性あ |
| 小 | 不登校児童が増加したこと。 |
| 小 | 複数の児童に、オンラインゲームによる悪影響が出ていること。特にフォートナイトにのめり込み、生活が乱 |
| 小 | 保健室登校の児童がいるが、怪我や不調での来室が増えて、鉢合わせてしまう。 |
| 小 | 保健室来室者の倍増 |
| 小 | 保護者、教育委員会、学校にいる教職員、それぞれの立場でコロナの影響で課題だと感じていること(保護者に |
| 小 | 母子分離不安や精神的な不安が強いことが原因で登校渋りが増えた。 |
| 小 | 本校では、休校後、欠席や健康面においてたいした変化はみられていないが、外での活動量が減っており、体 |
| 小 | 本校はないが、性に関する問題が増えていること。 |
| 小 | 本校はもともと肥満が課題であったのが、休校明けさらに憎悪していたこと。結局は生活リズム、食生活が乱 |
| 小 | 万が一学校関係者から感染者が出た場合、学校はどうしても密になる場面が多いことからクラスターになり |
| 小 | 様々なストレスによる体調不良など |
| 小 | 抑制された日常が積み重なり教職員の体力、意欲の低下が子どもに影響を与えていると感じる場面がある。 |
| 小 | 来室の増加 |
| 小 | 落ち着いている学校だったが、生活リズムの乱れやストレスが過多になったことで、学級崩壊のような状態に |
| 小 | 臨時休校中、ゲーム依存や食事が不十分（１日３食食べていない）、昼夜逆転の生活をしている児童が多く、 |
| 小 | 例年と比較して一学期の早い段階で保健室登校の児童が増加した。 |
| 中 | 学校関係者が感染した場合の対応や誹謗中傷など |
| 中 | 1年生については入学後すぐの休校でもあり、中学校生活のリズムがなかなかつかめずそれを引きずっている生徒もいる。 |
| 中 | １年生を中心に、入学後すぐに長い臨時休業に入ったため、学校生活に適応できず、不登校傾向の生徒が増えていること。 |
| 中 | 6月から学校が始まり学校生活にストレスを抱えている生徒が多い。 |
| 中 | snsでの問題 |
| 中 | SNSを含めた生活リズムの大きな崩れ |
| 中 | アンケートの結果、感染症そのものや友達に逢えない寂しさ、行事がなくなる事等へ不安に思う生徒が半数いた事。 |
| 中 | インターネットや、動画視聴、ゲームの過剰使用 |
| 中 | ゲーム、ユーチューブを長く観た |
| 中 | ゲームなどのやりすぎによる生活リズムの崩れ。寝不足による体調不良。 |
| 中 | ゲームやSNSの使用など過剰使用で生活リズムが崩れてしまっている生徒がふえたことと、学校再開後もSNS上でのトラブルが尽きない。 |
| 中 | ゲームやSNSの使用時間が増えた |
| 中 | ゲームやインターネットの使用時間増加。 |
| 中 | ゲームやインターネットの長時間利用が習慣化してしまったこと |
| 中 | ゲーム障害、昼夜逆転、 |
| 中 | ゲーム等の時間が増えたこと |
| 中 | ケガ(骨折)の増加と、肥満度の増加です。 |
| 中 | こころとからだの健康状態が一番不安です。健康観察やアンケートの結果をみても、例年よりストレスフルな生徒が増加傾向にあります。 |
| 中 | このままでは、感染症が広がるのも時間の問題。学校生活自体が密であり、遠隔あるいは少人数学級にしなければ、何をしても徒労に終わる。 |
| 中 | この状況がいつまで続くのか、先がわからないことの不安。 |

| | |
|---|---|
| 中 | コミュニケーションスキルの低い生徒が、休校明けに教室に入りにくい精神状態になり、長期欠席になっていること。 |
| 中 | コロナ感染に関して、人のうわさ等によるいじめ |
| 中 | ストレスからと思われる耳の痛みなど、例年にない症状での来室、頭痛の生徒来室の増加。 |
| 中 | ストレスの増加 |
| 中 | スマホの利用が増えたことでSNSのトラブルが増えている。メディアの時間も増え、深夜までゲームをして学校で体調不良を訴える生徒がいる。 |
| 中 | ちょっとしたことで、大きなケガにつながるケースが増えていること。 |
| 中 | テレビやスマホの使用が増えたためか、視力低下が顕著である。 |
| 中 | どれも大きな問題であり、特にどれがというよりも互いに影響し合っている。 |
| 中 | ネットの使用時間が長くなっており、視力低下などの心配もある。 |
| 中 | ネットやゲーム依存による睡眠時間の低下 |
| 中 | ネットやゲーム依存傾向の生徒の増加し、登校しぶりの原因になっている |
| 中 | ネット依存により生活習慣が崩れてしまい、不登校傾向になる生徒が複数いる。 |
| 中 | ネット依存の子どもが出てきた |
| 中 | ひとり親家庭の貧困 |
| 中 | マスクをしていることで、友人間や対教師で表情が読み取りにくく、コミュニケーション力の低下を感じる。 |
| 中 | マスク着用に伴う熱中症や過呼吸 |
| 中 | メンタル不調の増加 |
| 中 | ルールを守ろうという規範意識が薄れ、学校が荒れてきている。 |
| 中 | 運動不足による肥満、肉離れや擦過傷の増加 |
| 中 | 家庭にいる状況が長かったせいか、もともと家庭環境が不安定だった家庭の問題（虐待、貧困、保護者の精神疾患等）が一気に表出し、その対応に追われた1学期だった。 |
| 中 | 家庭に安心感を持つことができない生徒が休校になったことで精神的に落ち込んでしまったり、学校に毎日登校する習慣が途切れてしまったことで、以前よりも生活リズムが乱れたり、人とのコミュニケーションが取りづらくなったりして学校に適応できない生徒が増加したこと。 |
| 中 | 家庭のデジタルメディアの時間が増えている。 |
| 中 | 家庭の意識や経済力などが子どもの生活に大きく影響すること |
| 中 | 家庭の不安定な状況もあり、精神的に不安定になっている生徒が多く見られた。家庭の中だけで過ごす時間の多さで家庭内での人間関係や生活リズムを崩しやすくなっている。 |
| 中 | 家庭差（貧困、教育） |
| 中 | 怪我の来室数が増え、骨折が増えた。熱中症生徒が増加した |
| 中 | 学校に適応できない生徒が増え、不安定な生徒がさらに追いつめられていること。 |
| 中 | 学校は、常に密な場です。その密な場で国が言うような3密を避けるようなことを完璧に行うことは不可能です。そのため、ある程度は対策（マスク、手洗い、換気等）を行っていますが、限界があります。月日と共に生徒も職員も意識が下がり、緩んでいます。一度緩んだものを元に戻すことは難しいです。 |
| 中 | 学校再開後、学校で体調不良を訴える生徒が増加したこと |
| 中 | 学校再開後、生活リズムの乱れは見られたものの学校生活を大切にしているなと感じる。新しくクラスのクラス開きが例年のように時間をかけられていない分、新しいクラスに馴染むのに苦戦している生徒がみうけられる。 |
| 中 | 学校再開後の授業が急速に増え、また部活動も始まり生徒が常に疲れている状態にあること。また、それに伴って教師はもっと疲れている。市町村によって、課業日に差があり、多いところはこんなに必要かと思い、少ないところは授業内容が終わるのかと思う。 |
| 中 | 学校再開後体調不良の場合は極力登校を控えてもらっているが、そういった児童生徒が家にずっといる生活が当たり前になり、なかなか学校生活のリズムに心身共に適応できない点 |
| 中 | 学校内での感染が広がる事 |
| 中 | 学校内での流行。 |

| | |
|---|---|
| 中 | 活動不足 |
| 中 | 感染拡大した際の学校の対応の限界。どのようにしたらよいか不安。 |
| 中 | 感染予防と熱中症対策が相反する。体育や部活動はマスクなしで実施しているが、運動中だけでなく休憩中などもマスクをつけず近距離で会話が行われている。 |
| 中 | 感染予防の徹底ができる環境にない中での学校再開と感染予防。<br>休校中の生活習慣の乱れ。(昼夜逆転、栄養の偏り、長時間のゲーム使用) |
| 中 | 期末テストが無事に終了できること |
| 中 | 疑いだけでは、陽性者が出なければ学級閉鎖など予防的措置を取りにくいこと |
| 中 | 休み中にゲーム依存のようになり、登校を渋る生徒が複数出ています。また、昼夜逆転してゲームをやり、生活リズムを戻せず、体調不良を訴えます。<br>１年生が、中学校の生活にスムーズに馴染めず、違う小学校の子とも上手に馴染めず、結果不登校になっているケースも数件あります。 |
| 中 | 休校が続き、学年の切り替えがうまく出来なかった（特に中１）、体力の低下や姿勢の悪化 |
| 中 | 休校で太ったと食事を抜くダイエットをする女子がかなりいた |
| 中 | 休校は子どもたちのメンタルに大きく影響がでており、うつ症状の生徒がおり、とても心配。 |
| 中 | 休校中、家庭で自由に過ごしていたため、ゲーム依存や生活習慣の乱れ、コミュニケーション不足などから、学校生活に不適応を起こしている生徒が増加している。 |
| 中 | 休校中に、家の生活が居心地がよくなったことで登校しぶりが増加したこと、学校に来ても無気力な生徒が増えたこと。 |
| 中 | 休校中に、生活リズムが悪化し(夜中までゲーム)その影響が出ている生徒がいる。また、体力の低下が著しい(縄跳びで背中の痛みを訴える生徒続出)生徒も見られる。中学三年生では、最後の大会がなくなり、学習の遅れ、行事の不透明さなどから、すべてに気力を無くしている生徒もいる。リストカットをする生徒も増えた。 |
| 中 | 休校中にSNSで、外部と知り合い、非行が始まったケースがある。 |
| 中 | 休校中による体力低下により、体育後の体調不良者が増加したこと。体力がなく、熱中症症状も出やすい |
| 中 | 休校中のゲームの過剰利用による生活リズムの乱れや体力の低下を改善できないまま、夏休みが始まり再び長期休暇となってしまったこと。 |
| 中 | 休校中のネットの長時間使用。それに伴う視力の低下。 |
| 中 | 休校中の運動不足や、栄養不足等の影響からか、怪我をしやすく、重症化しやすい(骨折が多い)。 |
| 中 | 休校中の生活で、ゲーム等をする時間が増え、視力低下のみられる生徒が多かった。体育や部活でケガをする割合も増えたように思う。 |
| 中 | 休校中の生活により、朝早く起きることが辛く朝食を食べずに登校し、それにより体調不良を訴える生徒が非常に多いこと。 |
| 中 | 休校中の生活リズムの乱れ |
| 中 | 休校中は身体を動かす機会が減り、体力の低下や体重の増加が気になる生徒もいた。学校再開後は、体育や部活動などで徐々に体力も戻ってきているようだった。 |
| 中 | 急な体重増加と体力低下により、膝や腰の痛みを訴える生徒が目立ちます。 |
| 中 | 教員が掃除をしたり、給食前の消毒をしたりしたので、生徒が動くことが少なくなり、他人任せの部分が目立つようになった。自分たちがしてはいけないと思っている。 |
| 中 | 教職員の負担増、ひいては子どもに影響がでないか。 |
| 中 | 近隣地域での拡大があり、学校に感染者が出るのも時間の問題だと感じる。もしそうなった場合、生徒を守れるか（SNSなどでの噂）心配。また、学校という閉ざされた空間でどこまで三密を回避できるのか。あまりにも教員は負担が多い。 |
| 中 | 軽い運動で疲労骨折など、普段なら考えられないけがの症例が複数見られる。 |
| 中 | 欠席・遅刻・早退者、保健室来室者の増加 |
| 中 | 校内でクラスターが発生した場合などの対応 |
| 中 | 今後感染者が出てくる可能性があること。その場合の対応など。 |
| 中 | 差別や偏見、教職員も県内でコロナが出ると、まるで悪者のようにそれについて調べている |
| 中 | 昨年まで問題なく登校していた生徒も、生活リズムの乱れから学校に足がむかなくなり、教室に入れない生徒が増えた。 |
| 中 | 子どもたちの疲れ感が日に日に強くなっているような気がする |

| | |
|---|---|
| 中 | 子ども達の精神的人間的な成長発達に大きな影響が及ぼされるのではないかということ |
| 中 | 子供の生活リズム、家庭問題 |
| 中 | 視力が低下した生徒の増加 |
| 中 | 視力の低下が例年より多い気がする。また、肥満傾向の生徒はより肥満度が上がり、痩せ傾向の生徒はより痩せ傾向が大きくなった様に思う。 |
| 中 | 視力低下 |
| 中 | 児童生徒への授業への遅れ、教職員への心身の負担が増加していること |
| 中 | 時間的にも、内容的にも、詰めつめの授業で、生徒は疲れている。精神的にも。 |
| 中 | 自粛期間中による運動不足と、暑さの耐性が落ちたことにより特に体育後に体調不良で来室する生徒が多くなったこと |
| 中 | 自分がコロナにかかって、持病のある家族に感染し死んでしまったらどうしようと心配している生徒がいる。 |
| 中 | 授業時数等の関係上学校行事、部活動の大会等の中止により学校生活にゆとりがなくなり、ストレスを感じている生徒が増えています。 |
| 中 | 就寝時刻がどの学年も遅くなっていたため、体内時計がずれたのか、再開後も就寝時刻が改善しない生徒や不調を訴える生徒が増えた。 |
| 中 | 修学旅行で関西地方に行くこと。あまりにも感染のリスクが高いため、感染者が少ない地域へ場所を変更すべきであると考える。 |
| 中 | 小人数で、登校回数が、多く、大きな変化や、問題は、なかった。 |
| 中 | 新しい生活を意識した生活を呼びかけているが、学校では　蜜　は防げない。<br>手洗いを奨励しても、水道が少ない事で20秒間しっかり洗う事ができない。蜜を作ってしまう。<br>教室が狭い。<br>蛇口やトイレレバーについても自動で流れたり止まったりするものが感染予防になると考えるが学校施設は時代に追いついていない。 |
| 中 | 新一年生が学校再開前にネットでのいじめをしており、それにより学校再開後に対応に追われている。 |
| 中 | 新学期始まってすぐの休校であったため、適応出来ずに不登校傾向になった生徒が、数名おり、対応が必要である。 |
| 中 | 新型コロナウイルスに過剰になりすぎてしまっていること |
| 中 | 新型コロナウイルスの感染拡大 |
| 中 | 新型コロナウイルス感染症が児童生徒に広がる可能性があること |
| 中 | 新型コロナウイルス感染症が児童生徒に広がる可能性があることについて…部活動をコロナ禍以前のように行っていることについて疑問を感じている。手洗いや用具の消毒等は実施しているが、マスクをしていない状態で密接になり競技をすることが避けられない部活動もある。全く活動させないとはいかないが、不安に感じて参加している生徒は少なからずいると思う。今の状況では生徒に強制的にやらせているようにしか思えない。 |
| 中 | 新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者、感染者の出現 |
| 中 | 人との直接的な交流が著しく減少したことにより、中学生時代に得る人間的成長の機会が減少している |
| 中 | 生活の乱れ。家庭内のことであるので、なかなか介入しにかかったり、本人に改善しようという気がなければどれだけ働きかけても変化がないことが顕著になったように感じる。 |
| 中 | 生活や学習習慣が乱れ、顕著ではないが家庭の状況で差がみられること。 |
| 中 | 生活リズム |
| 中 | 生活リズムが崩れ、とくにインターネットなどの利用時間が著しく増えたことにより、睡眠時間が短くなっていること。 |
| 中 | 生活リズムが乱れた生徒が学校に適応できず、不登校傾向にあること。 |
| 中 | 生活リズムが乱れて、せっかく身に付いていた習慣が崩れてしまった。 |
| 中 | 生活リズムの悪化により、遅刻、欠席、保健室登校などが増えたこと |
| 中 | 生活リズムの乱れ |
| 中 | 生活リズムの乱れ |
| 中 | 生活リズムの乱れ |
| 中 | 生活リズムの乱れ、SNSの使い方、人権教育 |

| | |
|---|---|
| 中 | 生活リズムの乱れ、ストレス |
| 中 | 生活リズムの乱れ、それによる登校しぶり |
| 中 | 生活リズムの乱れ、体力の低下 |
| 中 | 生活リズムの乱れによる体調不良を訴える生徒が増えたこと |
| 中 | 生活習慣の乱れ |
| 中 | 生活習慣の乱れ |
| 中 | 生活習慣の乱れ、夏休みの短縮でリフレッシュできてない、先行きが見えず希望がもてない |
| 中 | 生徒の心の持ち方。目に見えないため、わからない。 |
| 中 | 生徒の身体の感覚が鈍り、普段ならあり得ないようなケガが多発した。 |
| 中 | 生徒の生活習慣の乱れ |
| 中 | 生徒の体力の著しい低下 |
| 中 | 生徒の体力の低下 |
| 中 | 生徒の体力低下、生活リズムの乱れ |
| 中 | 生徒の体力低下、生活習慣の乱れ<br>家庭で自粛に取り組んでいたが、家庭での生活管理が難しいように感じた。 |
| 中 | 生徒や職員がいつ感染してもおかしくない現状にあること。学校生活は配慮しても、密を避けられないような場面はある。そのような中で罹患者が出ないように対策をし続けることがとても難しい。 |
| 中 | 精神的に不安定になる生徒が増え、自傷行為が増えたこと。 |
| 中 | 多くの行事の中止により、不登校傾向のある生徒のモチベーションをあげる機会が大幅に減った。クラスのまとまりや仲間作りができないままで、不適応を起こしやすい。 |
| 中 | 多くの人の中にいることが苦痛だと気付き、一人で学習する環境を望む生徒が増えかなわなければ登校を渋る、午前だけ、午後だけの登校となる、人がいると学習意欲がわかないなど |
| 中 | 多くの生徒が集まる学校という場では予防に限界があり、責任ももちきれないということ。<br>学校ではできる範囲でコロナ対策を実践しているが、教師の指導が届かないところでのソーシャルディスタンスやマスク着用、手洗いなど、生徒及び各家庭の危機意識は個々で差がある。<br>生徒が登校している限りは、いつどのような形で感染が発生、拡大してもおかしくない。 |
| 中 | 多様な家庭環境の中、生徒自身で自分の生活リズムを維持すること(睡眠、食事、ゲーム、保護者との人間関係のストレスなど) |
| 中 | 体育の後具合が悪くなる生徒が増えた。少しの体調不良で不安になる生徒が増えた。不登校の生徒の昼夜逆転がひどくなった。ネットゲームでのアイテム購入のため、金銭のやり取りがあったことが発覚し指導した。 |
| 中 | 体育の授業中の怪我が増えた。 |
| 中 | 体重の変化に関して、元々標準体重だった生徒については体重の増加が少ないが、元々肥満傾向にあった生徒の多くで著しい体重の増加がみられる。 |
| 中 | 体調を崩しがち。視力の低下。 |
| 中 | 体調不良による保健室の来室者が多い。保護者もフォローが必要でスクールカウンセラーに面談をすすめてもらっている。職員の生徒指導委員会に話題となる生徒はほとんど減り、教育相談部会に名前のあがる生徒が圧倒的に増えている |
| 中 | 体調不良を訴える生徒の増加がみられ、早退にすべきかどうかの判断が難しい。 |
| 中 | 体調面、精神面共に崩れてしまう生徒が多いこと。 |
| 中 | 体力、気力の低下から早退や欠席、体調不良が増えた |
| 中 | 体力が低下し、体調不良やけが等来室者や欠席者が多い。 |
| 中 | 体力の低下 |
| 中 | 体力の低下 |
| 中 | 体力の低下 |
| 中 | 体力の低下。運動部で活動量が多かった生徒が運動不足のため以前は突き指で済んでいたであろうけがで骨折したり靭帯断裂したりという大きな怪我になった |
| 中 | 体力の低下。骨折などのけがが増加したこと。 |

| | |
|---|---|
| 中 | 体力の低下。体育時に、貧血、熱中症等が頻発。特に1年生。２年３年生の運動系部活生も、起こしている。 |
| 中 | 体力の低下がみられる |
| 中 | 体力の低下が顕著である |
| 中 | 体力の低下と生活リズムの乱れ、学習の遅れと格差。 |
| 中 | 体力の低下によって学校生活のリズムにのっていく気力も低下している生徒がいること。長引いた梅雨の影響もあるかと思う。 |
| 中 | 体力低下 |
| 中 | 体力低下、精神面で不安定な生徒の増加 |
| 中 | 体力低下、体調不良が何によるものなのか判断が難しいこと |
| 中 | 体力低下、肉離れ等医療を要するけがの発生 |
| 中 | 体力低下とインターネットやゲームの過剰使用 |
| 中 | 体力低下による、けがや体調不良が多い。早退の基準が難しい。 |
| 中 | 体力低下によるクラブ活動のあり方について。マスク着用等による熱中症のリスク。 |
| 中 | 体力不足、外に出れないストレスが体調に表れていること |
| 中 | 中3ですが、頑張っていた部活が中途半端になってしまい、気持ちが落ち着かない生徒が増えたこと。がんばろうという気持ちがもてない生徒が増えてしまった。 |
| 中 | 中学1年生が、学校生活を突然強いられる形になり、消化不良を起こしている感がある。 |
| 中 | 昼夜逆転生活や、登校しぶりが少し増えたこと |
| 中 | 聴力、日本語を十分に理解できない家庭への情報提供の難しさ |
| 中 | 長期の休校期間により、生徒の人間関係の構築がうまくいかず、教室に入りづらい生徒や不定愁訴を訴える生徒が多く見られたこと。 |
| 中 | 長期休校による体力低下や暑熱順化ができていないことにより、少しの体育的活動で熱中症様症状を訴える生徒が増えていること |
| 中 | 登校が再開され、生徒のストレスが、登校しぶりや保健室登校などに繋がっている。 |
| 中 | 登校しぶりが急増していること。 |
| 中 | 登校しぶり生徒の増加 |
| 中 | 特に一年生が学校で中学生活を送るために必要な習慣を身につけるのに時間がかかっている |
| 中 | 熱中症や胃腸炎等、他の疾病の予防に支障があること。 |
| 中 | 漠然とした不安があり、いつも何かしらの規制がありながらの学校生活に、生徒は戸惑い、気持ちが疲れているように感じる。 |
| 中 | 漠然とした不安や人間関係のトラブルなどで保健室に来室する生徒が例年の2倍ぐらいに増加した。 |
| 中 | 不規則な生活習慣及び体力低下による体調不良者が多いこと、それに伴い熱中症の増加が心配 |
| 中 | 不登校、保健室登校、登校渋り、ストレスによる教育相談・健康相談が増加した。 |
| 中 | 不登校の増加、ストレスで体調不良や不安定になる生徒が多い |
| 中 | 不登校やメンタルが不安定な生徒の増加、特に１年生。生徒指導面の課題が多く発生していること。 |
| 中 | 不登校傾向、登校しぶりの生徒の増加 |
| 中 | 不眠等うつ的な傾向がある生徒の増加 |
| 中 | 夫婦関係の不安定による離婚、兄弟の入院、日々の不安により、精神的に不安定になった生徒がいる。 |
| 中 | 普段なら軽度な風邪でもすべて出席停止扱いとなってしまって長期欠席となったことで生活のリズムが崩れてしまい、登校を開始しても体調が戻りにくい生徒がいる。 |
| 中 | 保健室登校 |
| 中 | 目に見えないウイルスとの今後の付き合い方全般 |
| 中 | 様々な学校行事が延期されたり中止されたりして、精神面に影響を与えないか |
| 中 | 理由がはっきりしないものの、なんとなく行きたくないという、不登校傾向の生徒が増えた。 |
| 中 | 喘息や食物アレルギーなど、定期的に受診していた子の受診する時期があいてしまったこと。 |

| | |
|---|---|
| 中 | ゲーム、インターネット等の過剰利用が増え、生活リズムが崩れること。 |
| 中 | ゲームやスマホなど、メディアの使用時間が著しく増えていること |
| 中 | 生活習慣への悪影響 |
| 高 | 休校中に体力が低下し、登校後すぐに保健室に来室する生徒が増えている。 |
| 高 | 「休校がなければよかったのに」と生徒がコロナを理由に様々な課題から逃げてしまっている。 |
| 高 | ・休校が長引いた場合の学習対応の整備が課題。年度始めの休校中はインターネットを通して課題配信を行っ |
| 高 | １年生で友人作りに出遅れた生徒が孤立しています。来室者も急増し、前年の2.5倍です。 |
| 高 | 6月の分散登校でクラスの交友関係が限定されたことにより、人間関係を構築する時期に達成できずストレス |
| 高 | クラス開きが行われなかったり分散登校が続いた関係で教室内に居心地の悪さを感じる生徒が多い。 |
| 高 | コロナにより年度始めの人間関係づくりが希薄化して、トラブルが起きやすくなった |
| 高 | コロナによる休校中に自殺念慮、リストカット、望まない妊娠や対人トラブルなど心に不安や悩みを抱える生 |
| 高 | コロナの影響で親が失業し、家庭の生活意識が変わった。インターネットやSNSで知らない人とつながり、会 |
| 高 | コロナ感染への不安から、登校（電車通学など）出来ない生徒がいること |
| 高 | すぐにビフォアコロナ状態に戻した為、新生活様式が定着しない。昼休みに円になって大騒ぎで弁当を食べて |
| 高 | ストレス、不安定な精神状態 |
| 高 | スマートフォンのアプリで、友人の行動歴がわかってしまうため、県外に行ったことが知られてしまう。その |
| 高 | メンタル面が普段からの課題なので、今後益々、教育相談のニーズが増えるだろうと予想される。 |
| 高 | メンタル面でのフォローが必要な生徒が増えた |
| 高 | やりたいことを自分で見つけられる生徒（自走できる生徒）と、できない生徒の差→自己効力感、自己肯定感 |
| 高 | 家庭により、教職員により、コロナ対策に対する認識の違いが大きい |
| 高 | 家庭環境がかわったり、両親の不仲などに適応できなくなってしまったり、振り回されている生徒がいること |
| 高 | 学校(国民)へのお願いだけで、後は現場でという感じが良くないです。 |
| 高 | 学校でクラスターが発生しないよう、対策をしているが、不安である。また、詰め込みで授業を再開している |
| 高 | 学校にて体調不良を訴える者が増加。特に新入生。 |
| 高 | 学校の環境自体が、感染を防げない |
| 高 | 学校を休んでも欠席にならないことが不登校生を急増させている。１年間欠席しても進級できてしまうこと。 |
| 高 | 学校行事がほとんどできず、生徒の楽しみが減っていること |
| 高 | 学校行事もほとんどが中止となり、生徒はいつもと違う学校生活に大きな戸惑いを感じている。 |
| 高 | 学校生活に対する意欲というより、遅れた分の人間関係の構築を急いでいる様に見える事。それによって、後 |
| 高 | 学習の遅れを気にし、体調に影響してしまう。友達づくりがうまくできないままで一学期が終わってしまった |
| 高 | 感染拡大 |
| 高 | 感染者が1人でも出ると、年間計画等に多大な影響がでる。また受験生にも影響が出てしまうこと。 |
| 高 | 感染者が広がること。今は本校で感染者はでていないが、でた時に差別等の問題が出る可能性があると強く思 |
| 高 | 感染防止策が不十分な上、先の見えない対応を強いられている感じがある。教員がやらなければならない感染 |
| 高 | 環境の変化で不安になり、リストカットやパニックなどの不適応を起こす生徒が増えた。 |
| 高 | 休校による家庭での生活が長くなり、学校に来る価値をなくしている。 |
| 高 | 休校の影響で不登校の生徒が増加した事 |
| 高 | 休校後に保健室登校、不登校、クラスや学校になじめない生徒が増加したことが大きな問題であると思う。普 |
| 高 | 元々、集団に対し苦手意識のあった子は、学校が再開してからも登校できていない。 |

| | |
|---|---|
| 高 | 児童生徒のコロナに対する危機感が薄れている事 |
| 高 | 自粛期間中を経て、引きこもりになってしまって学校に来れなくなったケースが何件かあった。 |
| 高 | 集団生活の中で、人との距離を取ることが困難な場面が多いため、一人でも陽性者が出た場合、クラスター化 |
| 高 | 出席停止の基準が曖昧で、学校によっても対応が異なるため基準を設けて欲しい。 |
| 高 | 新型コロナウイルス感染症に罹患すると、重症化しやすい生徒が在籍していること。 |
| 高 | 人間関係を学んだり、関係性を構築する場が不足している生活習慣の乱れからくる不調や不適応状態を示す子 |
| 高 | 生活リズムが崩れること。 |
| 高 | 生活リズムの乱れ |
| 高 | 生活リズムの乱れ |
| 高 | 生活リズムの乱れによる心身への影響、変化。ゲームやSNSを通じた人間関係のトラブル。 |
| 高 | 生活リズム乱れ、昼夜逆転状態の生徒が増えた。 |
| 高 | 生活習慣が乱れて学校のある生活に戻せず体調を崩したり、精神的に病んでしまう子が多いこと |
| 高 | 生徒、教職員、保護者の心の余裕がなくなっている気がする |
| 高 | 生徒が感染した時に、新聞等で学校名が出ること。 |
| 高 | 生徒が感染症に対する正しい情報や知識を知り、自分自身で感染予防を進んで行えるようにな指導が徹底出来 |
| 高 | 生徒が新型コロナウイルスに感染すること |
| 高 | 生徒によっては新型コロナの影響により生活環境が変わり、不眠に悩まされている子どもがいるため、その生 |
| 高 | 生徒のコロナぬ対する意識の低さ |
| 高 | 生徒の生活リズムの乱れ |
| 高 | 生徒の貧困問題 |
| 高 | 精神的に疲れている生徒が増えていると思います。行事がなくなり、夏休みも短縮され、授業のみを進めてい |
| 高 | 体を動かす機会が全くない子と運動していた子との格差が広がった。 |
| 高 | 昼夜逆転による生活リズムの乱れ |
| 高 | 長い休校期間を経て生活リズムの崩れ、自粛モードの疲れなどから生きる力が低下しているように感じる生徒 |
| 高 | 長期休みで精神が不安定になり、不登校傾向を示す生徒が多いこと |
| 高 | 長期休業における体力低下、生活習慣の乱れ、学力低下など |
| 高 | 通信教育ができない生徒の学業不振 |
| 高 | 電車やバス通学の生徒が多いため、いつ誰が感染していてもおかしくない。生徒職員の中にキャリアが含まれ |
| 高 | 特に進路決定をする3年生が、休校の影響で学習に不安を感じ、精神的に不安定になること |
| 高 | 漠然とした不安を抱え、ストレス耐性が弱い生徒が不登校傾向を示す生徒が増加したこと。 |
| 高 | 漠然とした不安感にとらわれている生徒がいること |
| 高 | 発熱しやすい生徒を出席停止にせざるえないため、教育を受ける権利が侵害されているように感じること |
| 高 | 肥満とやせの生徒が増加した。身体測定記録をみると、昨年度と比較し体重増減の激しい生徒が多かった。 |
| 高 | 不活動な生活で生じた筋力低下による起立性調節障害で、倒れたり、不登校傾向になっている生徒がいること |
| 高 | 不登校傾向の生徒が増え、保健室での対応が増加したこと |
| 高 | 部活動が再開したが体力の低下に伴い熱中症のリスクも上がることが懸念される。 |
| 高 | 分散登校などが続き、クラスでの人間関係づくりに上手くいっていない生徒がいる |
| 高 | 本校は、今のところ、順調に学校生活が過ぎていることが、心配です。 |
| 高 | 万が一生徒や教職員でコロナウイルス感染者がいた場合、集団感染につながるリスクが大きいこと。 |
| 高 | 無気力や悲壮感など鬱症状の生徒の出現 |
| 高 | 陽性者だった場合、報告しづらい状況がある。 |

| | |
|---|---|
| 高 | なぜこの状況で通常登校なのか疑問を持っている生徒が多数いる |
| 高 | 学校再開後の詰め込み授業による、生徒や教員の疲れ。生徒は、感染性でない嘔吐や腹痛を訴える人数が例年 |
| 高 | 休校期間中にスマホ依存になった生徒がいる。 |
| 高 | 健康観察で「体調不良の場合は登校しないように」としているが、生徒が体調不良を訴えても登校させる保護 |
| 高 | 校内消毒等感染予防の取組や詰め込みにならざるを得ない授業やオンライン学習の対応等々、教職員が疲弊し |
| 高 | 授業補償のため、1学期中は土曜も通常授業となり、生徒も教員も本当にキツかった。全体的にストレスや登 |
| 高 | 生活習慣の立て直しと生徒たちのコミュニケーション確立 |
| 高 | 生徒間での危機感が薄れ、感染が広がらないかが心配 |
| 高 | 中高ではやせの生徒やゲーム依存傾向の生徒が増えた。摂食障害や、リストカットなど自傷行為の生徒が増え |
| 高 | 肥満や肥満度が次の段階に進んだ生徒が増加した。 |
| 高 | 不登校 |
| 高 | 保健室登校で対応していた生徒の受け入れができなくなり、不登校になっている。 |
| 特支 | コロナのために活動の多くが制限され、教育や体験の不足 |
| 特支 | チェック項目の中でも体力の低下を特に感じます |
| 特支 | マスクの着用ができない生徒がいる、 |
| 特支 | 運動不足の児童生徒が増え、肥満傾向が増加したこと。 |
| 特支 | 感染の拡大 |
| 特支 | 感染不安感から登校していない生徒がいる。教育の保証ができていないこと。進路先の求人がなくなり、就職 |
| 特支 | 管理職の意識の低さと情報が回ってこない事。 |
| 特支 | 虐待リスクのある児童生徒には休校が長すぎた |
| 特支 | 休校中に学校で運動をしなくなったので、肥満が進行している場合が明らかに多い。体力も低下し、以前ほど |
| 特支 | 休校中に肥満、痩せ、体力低下の生徒が増えたこと。家庭の負担（見守りが必要など）が大きかったことが関 |
| 特支 | 休校中に不安定になりパニックが増え、学校再開後他害があり、受診、服薬となる生徒が居た。 |
| 特支 | 休校中もデイサービスを受けていた子も多く見られ、この環境が好ましいとは思えず、学校再開となっても不 |
| 特支 | 子どもたちに感染症対策を徹底するのは困難であり、いくら指導しても常に守ることは難しいこと。 |
| 特支 | 児童生徒の周辺に感染拡大すれば、抵抗力が弱いため感染によるダメージが大きい事、家族の感染により、養 |
| 特支 | 疾患があることにより、他の生徒と関われなかったり、他の生徒もその子に関わることができないこと。 |
| 特支 | 暑くなる時期の学校再開や、1学期の延長により、児童生徒の熱中症を含む体調不良が増えています。 |
| 特支 | 新1年生がスムーズに学校生活をスタートしにくかったように感じる。 |
| 特支 | 新型コロナウィルス感染症直接でなく体調面に影響が出ること |
| 特支 | 生活リズムの乱れ |
| 特支 | 生活リズムの乱れ |
| 特支 | 体力の低下 |
| 特支 | 体力の低下 |
| 特支 | 昼に非接触体温計で測定をすることによって表面温度が高い状態で測るため発熱対象になり別室対応をする児 |
| 特支 | 特別支援学校であるため、ソーシャルディスタンスをとることができない、マスク着用ができない児童生徒が |
| 特支 | 肥満と視力低下 |
| 特支 | 肥満傾向の児童生徒の大幅な体重増加。外にも出られず運動もできず食べることでストレスを発散させていた |
| 特支 | 病気や障害を持った児童生徒の中には病気にかかりやすい者もいるため、感染拡大が一番大きな問題と考える |
| 特支 | 保護者にストレスがたまること。生活リズムが崩れて学校のリズムになじめなくなること。 |

| | |
|---|---|
| 特支 | 本校は、病弱・肢体の特別支援学校であり、感染症が学校で広がると命の危険がある児童生徒が多くいること |
| 特支 | 未だに登校していない児童生徒がいること。 |